

受賞のことば

日本小児循環器学会では平成27年より公益財団法人宮田心臓病研究振興基金からの寄付を受け、「**Miyata Foundation Award 日本小児循環器学会研究奨励賞**」を設立しました。5回目となる本年度は**石田秀和先生**（大阪大学大学院医学系研究科 小児科学）、**中釜悠先生**（大阪市立大学大学院 医学研究科／東京大学医学部附属病院 小児科）が受賞され、6月の学術集会時に表彰式が開催されました。

石田 秀和 先生

大阪大学大学院医学系研究科 小児科学

この度、栄えある第5回Miyata Foundation Awardを受賞させて頂き、誠にありがとうございます。宮田宏章理事長をはじめ公益財団法人宮田心臓病研究振興基金の方々、また、選考に携わっていただいた諸先生方に深く御礼の言葉を述べさせていただきます。

今回、受賞させて頂いた研究テーマは、乳児拡張型心筋症の遺伝子解析についての研究でございます。私たちの施設は小児心臓移植実施施設であり、徹底的な内科的抗心不全治療にも関わらずLVAD装着を余儀なくされる症例を数多く診療しております。それらの中で、一部の症例においてLVAD装着後に著しく心拡大、心機能が回復し、数カ月から1年の装着ののちにLVAD離脱が可能になる症例が散見されるようになりました。しかし一方で、心機能の回復は限定的でありLVAD離脱は不可能な症例も多く存在します。本研究は、LVAD装着前の臨床検査では一見同じように見えるこれらの乳児拡張型心筋症において、何か事前に予測できる所見はないのだろうか？という疑問に端を発しております。私たちはこれまで心臓血管外科や循環器内科と共同して、組織学的所見や血行動態、心筋の生化学的解析を行ってきておりますが、本研究では遺伝学的背景の解析として、全エクソンシーケンスによる遺伝子解析により、回復症例と非回復症例との遺伝学的背景の差を明らかにすることを目的としております。本研究が、重症心不全に苦しむ子どもたちのより良い治療に繋がるよう努力していく所存です。

中 釜 悠 先生

大阪市立大学大学院 医学研究科
東京大学医学部附属病院 小児科

この度は、第5回 Miyata Foundation Award 日本小児循環器学会研究奨励賞に選出頂き、宮田宏章理事長ならびに小児循環器学会の関係各位に心より御礼申し上げます。

私はエネルギー代謝リモデリングを切り口とした心臓病の病態研究に従事しています。本課題ではRAS/MAPKシグナルの攪乱による先天異常症候群「RASopathy」に注目し、RASopathy関連心筋症の病態理解を目指します。独自に樹立する心筋症モデルの解析を通して、この最重症型心筋症の病態の根幹をなす心筋細胞機能異常を明らかにします。さらに、RASopathyにおける病的心筋の挙動を規定するエネルギー代謝特性を解明し、代謝リモデリングを標的とした疾患特異的治療の可能性を探究します。

少子化を背景とした疾病構造転換のなかにあって、こうした難病の克服を目指した重要研究課題に取り組むチャンスを頂けますことを大変光栄に思います。若輩ながら懸命に考えて参ります。今後とも、ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



左から公益財団法人宮田心臓病研究振興基金 宮田宏章理事長、石田秀和先生、中釜悠先生、坂本喜三郎理事長



宮田宏章理事長に授賞式にご登壇いただきました。